

第 27 回（令和元年度 第 2 回）黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 令和元年 9 月 3 日（火）14：00～
- 場 所 黒部市役所 2 階 201～203 会議室
- 出席者 協議会委員 18 名

委員等名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考	
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	大野 久芳	本人出席	会長	
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	中田 邦彦	本人出席		
		黒部市タクシー協会会長	神谷 尚機	本人出席		
		あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	助野 吉昭	本人出席		
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	松井 明澄	所長代理 佐伯 滋		
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	高尾 且英	本人出席		
		黒部市自治振興会連絡協議会	谷島 傳俊	本人出席	副会長	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市民生委員児童委員協議会長	田村 豊嗣	本人出席	本人出席	監事
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	本人出席	監事
		黒部市老人クラブ連合会長	村上 勝悦	本人出席	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会長	新村 恵子	欠席		
		公募委員	中谷 靖子	欠席		
	政策支援 アドバイザー	東京大学大学院工学系研究科教授	原田 昇	本人出席		
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	佐々木 凜太郎	本人出席	本人出席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	織田 幸治	欠席		
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	長谷川 僚一	本人出席	本人出席	
		富山県観光・交通・地域振興局 総合交通政策室次長	清水 圭	本人出席	本人出席	
		地域交通・新幹線政策課長				
黒部商工会議所会頭		川端 康夫	本人出席	本人出席	座長	
一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局代表理 事		川端 康夫	本人出席	本人出席		
Y K K 株式会社 執行役員 黒部事業所長		浅野 慎一	企画推進 グループ長	岡 智和		
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	石橋 剛	本人出席	本人出席			
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席	本人出席			

■事務局：黒部市都市建設部都市政策課：島津部長、畠山理事、廣木課長、神保班長、櫻田班長補佐、水島主任、大坂主事

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ（会長 大野黒部市長）
- 3 報告事項
 - (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
 - (2) 役員の交代・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 2
 - (3) ちょいのり黒部について・・・・・・・・・・資料 3
 - (4) バス停留所の上屋設置について・・・・・・・・資料 4
 - (5) 南北循環線のダイヤ改正について・・・・・・・・資料 5
- 4 協議事項
 - (1) 第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画について・・・・資料 6
- 5 その他
- 6 閉会

開会

- 定刻通り開会し、委員の変更について、事務局が紹介を行った。

あいさつ（大野市長）

- 市長より挨拶を行った。

残暑の中にもいよいよ初秋の気配を色濃く感じるようになりました。本日ここに第 27 回黒部市公共交通戦略推進協議会のご案内をさせていただいたところ、皆さんにはご参加いただき、まことに感謝を申し上げます。また、日頃より本市の公共交通の整備と運営に格段のご理解・ご協力をしていただいていることを改めて感謝しております。さて、最近の話題について触れさせていただきます。まず、ちょいのり黒部の登録者数が順調に数を伸ばしておりまして、今年の 8 月時点で 151 名が登録をしています。4 月の協議会で皆様にご報告いたしました時点では 55 名でありましたが、約 3 倍に増えております。今のところ昨年のような自転車の持ち去りや、放置などの大きなトラブルもなく、一定量の成果を上げつつあるといった状況になっております。この後の報告事項でも詳しく話されると思いますのでよろしくお願ひします。次に北陸新幹線でありまして、今年はお盆の帰省期間の初日として、8 月 9 日に乗降者数の調査を行いました。黒部宇奈月温泉駅の乗降人数は 3031 人で昨年の 3177 人と比較いたしますと、若干減となっておりますが、3000 人台を推移しております。なお、心配されておりましたお盆期間中の駅周辺施設の利用状況についても、大きなトラブルはなかったと聞いております。さらに、北陸新幹線につきましては 8 月 23 日付で喜ばしいニュースが入ってまいりました。JR 西日本のニュースリリースによりまして、秋の三連休に合わせて、10 月の 12 日と 14 日及び、11 月の 2 日と 4 日に、上り 2 本下り 3 本、合わせて 5 本のはくたか臨時便が運行されます。秋の紅葉シーズンの臨時便は平成 29 年の秋以来、2 年ぶりとなっております。はくたかの増便や臨時便を要望しております本市としては、要望の一部を叶えられて大変うれしく思います。これを期にさらなる利用促進を目指したいと思うところであります。続きまして富山地方鉄道の荻生駅の状況でありまして、工事も順調に進みまして、すで

に待合室やホームの基礎が立ち上がっております。周りからも駅の形が徐々に見えてきておりまして、12 月下旬の完成を待ち遠しく思います。今後も安全第一に工事を進めていただきたいと思います。続きまして本日の会議内容についてですが、報告事項が 5 点、協議事項が 1 点ございます。報告事項では役員の交代、ちょいのり黒部、バス停留場の上屋設置などを報告させていただきます。また、協議事項の第 2 次公共交通網形成計画については、7 月の作業部会で検討したテーマを基に、委員の皆様には計画の基本方針に向けた考え方について議論して頂きたいと思っております。さらに市民アンケート等についても概要説明を行いたいと思っております。どうか、有意義な会議となりますよう、皆様のご意見をお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

報告事項

- 事務局より、資料に基づき報告を行った。
- 司会：川端座長
質問なし
- 谷島副会長就任あいさつ

協議事項

（1）第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画について

- 事務局より資料 6 に基づき、第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画について説明を行った。
- 川端座長
今回の協議事項は第 2 次公共交通網形成計画を設定していく中で、基本方針に対して皆さんから意見を頂きたいと思う。
- 佐々木委員
まずアンケートについてだが、主な目的はおそらく第 1 次の公共交通網形成計画の成果検証と、次期計画の策定に向けた意見の収集であり、26 年度に行ったものを踏襲しつつも新たな項目を加えたものになっていると思うが、追加されている質問が具体的な問いになっていないため、どのような目的で聞いているのかが分からない。もしアンケートで追加の質問を行う場合には、その結果に対してどのようなことをするのか、聞く前に整理をしておく必要がある。アンケートはとることが目的になってしまう場合が多くみられるが、例えば、北陸新幹線のサービス水準をどのように聞くか考え、聞いた回答に対してどんな計画を立てるか考えられるのではないかと。今回のアンケートの説明では具体的な問いがないので、書かれている範囲でのコメントについては、別途事務局には伝えるつもりだ。新規の項目については出てきた結果についてどうするかという点から逆算して検討していただきたい。次に基本的な方針についてだが、作業部会のほうでもすでに議論をしていることなので、そこで行われた議論の内容について紹介してほしい。そのうえで担い手の確保についてだが、先ほど協議会で具体的な取り組みを決めるのは難しいが、方向性は決めたいとのことだが、作業部会でも議論されているとは聞いており、行政のできることも限られていると思う。計画に関しては行政が考え、行政がやるというものでもなく、協議会で考えて、協議会のメンバーがそれぞれの立場で推進していくという形にしたいと思っているので、そうなってくると事業者との連携が大事になってくる。国土交通省でも自動車関連の事業に関しては担い手の確保などの取り組みを推進させている。運輸局の HP でもどのような取り組みがあるのか示してい

るので、そちらのほうも紹介したい。次に運行事業の効率化という部分で事務局は赤字について、地域を支えるための支出額ということで理解をしているとのことであるが、これに関しては国土交通省からしても重要な視点だと思っている。そのような観点から本日は、運輸局のほうからパンフレットを配布している。中身については詳しく説明はしないが、地域のための支出について具体例や専門的な観点から説明、最終的には理想的な数値を示しているが、定量的なもので示すのは難しいが、こういった資料を基にした上でそれぞれの立場から参考にしてもらえればいいと思う。

○川端座長

作業部会で出てきた意見や協議事項などがあれば事務局の方から説明していただきたい。

○事務局

まず、アンケートの新規項目についてだが、具体的なサービス水準などではなく、現在の指標として満足しているかそうでないのかを把握しようと考えている。それに基づいた具体的な施策はまだ答えられる状況ではないが、アンケート結果を見て全体で考えていこうと思う。そのほか公共交通を持続的に運行していくために地域や個人で可能な取り組みについては市民の方から意見をいただき計画に反映していこうと思っている。続いて作業部会についてだが、計画の論点として話し合った結果を話す。まず中長期的な動向をふまえた施策の検討ということを追加してほしいとの意見があった。計画は短期間の計画であったので、中長期的な視野が必要とのことであった。また、細かい点では、学生向けの公共交通利用施策の検討、あるいは、バス路線の定期的な見直しの検討による効率的な運行体制などを大いに進めていただきたい、とのご意見を部会に出席していた方々からいただいた。それらの意見を反映した形で今回の協議会用の資料を作成した。また、担い手の確保について、法定協としては具体的な行動計画や事業の提案は難しいが、この計画において担い手が不足しているということに関連団体や協会でも共有し、こういったことが各々で取り組めるのか検討をしていきたいと思う。

○村上委員

先ほどからバスの運転手の確保が難しいとのことだが、最近ではバスの運転手＝男性というイメージが強い。女性のバス運転手を採用している事例もあるので、男性にこだわらずに女性に目を向けた人材確保に努めるのはどうだろうか。

○中田委員

運転手の不足の原因の一つとして東日本大震災があげられるが、それ以降でさまざまな業種で人材不足が起こっており、有効求人倍率も富山県は高い数値で推移している。ただ、新幹線市街地線のような遅くまで運行しているバスは1人ではまかなえない状況になっている。もし効率的な運行を目指しているのであれば、2人の運転手を使わないで、1人でも可能な運行ダイヤも考えてほしい。もう一つ、指標を定めて目標達成となっているが、現状の目標はレベルが低いのではないかと。もう少し高い目標を目指さないと、持続可能ということにはならないのではないかと。どのくらいの乗車数があれば持続可能なのかは分からないが、高い目

標を設定してそれに向かって運行するのが大事なのではないか。最近は免許返納により公共交通の利用者が増えたということもあるが、やはり一般の方で公共交通を利用している方はほんの一部なので、こういった方々に利用してもらうこと目標とするには現在の目標値は低すぎると思う。

○川端委員

先ほどあったように女性の運転手を雇用する機会というのは、確かになかなかないと思う。池尻線などは車体の小型化を始めたと思うが、運転手目線から見てこれについてどう思うか。

○中田委員

小型化となっても運転手の人件費は同様にかかっている。普通のバスより運転免許的にハードルが低いですが根本的な運転手確保には繋がっていない。

○原田委員

1人の運転手で運行できる時間はどれくらいなのか。

○中田委員

大体1日平均7、8時間くらいである。

○清水委員

2点申し上げたい点がある。まず、立地適正化計画との関係を示していただきたい。都市機能を誘導した区域の中を走っているのか外を走っているのかということも含めたうえでどのようなルートを走っているのかを示していただきたい。次にアンケートについてだが、新幹線のアンケートは外国人の方に対してはどうするのかを教えていただきたい。

○事務局

立地適正化計画については平成30年の3月策定ということで公表をしている。内容としては三日市地区に人や都市機能を誘導する取り組みである。それをするにあたってバス路線は三日市地区に入ってくるような形にしたり、デマンドであれば他の地区から三日市地区に誘導させるという形になっている。また、それに向かって民間の力をお借りしたり、市の方向性に対応するような施策を行っている。新幹線のアンケートについては、今のところ日本の方もしくは日本語を理解できる方のみを対象とする予定である。

○長谷川委員

この計画は向こう5年間の計画ということでよろしいか。

○事務局

計画期間は5年間であっている。

○長谷川委員

そうするとここにいる皆さんには、その 5 年間で 5 年後の黒部市の姿を見据えた計画を作ろうとしているという共通認識が必要だと思う。次に今日が 9 月 3 日でスケジュールを確認すると残り期間が 7 か月弱ということで、これからアンケート調査を行い計画を作るわけだが、他所の事例では 2 年間かけて公共交通網形成計画を作ろうとしており、そこでは前年度にアンケート調査を行っていた。その結果を踏まえて具体的な実施事業を決めようとしていたが現時点でもまだ決まっていないという地域もある。その地域でも今年度末を目途に計画の策定をしているが、2 年間かけてもそのような状態である。悪いと言っているわけではないが、計画の具体化には公共交通事業者と地域住民の皆さんの共通の理解が必要となる中、あと半年というスケジュールでどこまでのことが可能なのだろうか。受諾しているコンサルも違うのでそれぞれのやり方があるとは思いますが、他所の事例を見てきた側からすると心配である。また、私は 7 月の作業部会にも出席したが、そこでは活発な意見がありそれは非常にいいことだとは思いますが、作業部会と協議会が残り 2 回ずつとなっており、そこでどこまで形にできるのかと思う。ここで思うのが、部会を行う前に事務局と地域の関係者の皆さんで話し合うことも非常に大切だと思うので、スケジュールを見て考えておいてほしい。

○事務局

スケジュールに関してだが、法定協議会はスケジュール通りに開催しようかと思う。そこに至るまでの過程で、細かい協議をするために作業部会というものを開催させている。その前段階にも事務局のほうで、ある程度の協議する事項もある。また必要に応じて作業部会の回数は増えるかもしれない、ということも考えたうえでのスケジュールになっている。また、新たに形成計画を作っていくということだが、これまでに実施してきた事業に関して資料に記載しているが、全部で 30 以上の事業が掲載してある。これまで行ってきた事業をすべて引き継ぐわけではないが、これらの事業がベースとなって新たな形成計画に反映させると考えている。期間はどちらかといえば短いかもしれないが、ベースになるものがしっかりとあるので、ここに新たな顕在化した課題に向けた方策を加えていく形で、進めていければと思っている。なのでこれからも相談をするようなこともあると思うが、よろしくお願ひしたいと思う。

○川端座長

場合によっては作業部会の回数を増やすということで、参加者の方々にはご了承承願したい。

○谷島委員

このような計画の中で一番ベースになるのは人口だと思う。5 年後に黒部市の人口が何人になっていると想定するのか。想定通りになるのかは様々な要因があるため分からないが、まず基本となる数字を想定して計画を立てたほうが良いと思う。その辺が曖昧だと、それぞれの意見がまとまらないので、どのくらいの数値を想定しているのか予め決定させ、共有をしたほうが良いと思うがどうだろうか。

○事務局

人口の話は非常に重要な話だというようには認識している。課題の中長期的な施策のロードマップの中で、想定される人口について検討していきたいと考えている。

○原田委員

黒部市の現在の事業を見てみると、公共交通空白地域 0%を目指して、それを実現するために頑張ってきたことは、以前の計画の中でも非常に良いことであり、それにプラスして赤字だから路線を廃止させるという考えを持たない形で利用者や事業者にも頑張ってもらいたいと思う。実際、市と民間の負担する費用の部分が多くなっていることも、赤字ではなく空白地域をなくすための支出として目標を達成させるために計画を通してきたのだと思う。その中でなかなか思い通りに進んでない部分もあるが、今回のような協議会や作業部会で意見を出し合い、検討されている部分はかなり整理されていると思うので、その辺の内容を具体的な資料にさせていただくとありがたいと思う。それから将来人口や立地適正化関係のことは、別段隠すようなことでもないのだから、皆さんと情報を共有するための資料として付属してほしい。また、赤字＝廃止ということを考えずにやってきているが、全国的に言われているのが、空白地域をなくすためにコミュニティバスを運行させて、なるべく地域住民の意見を取り入れて路線をひいていたら赤字額が予想より高くなってしまおうというケースだ。黒部市でもこの傾向がみられる。最近のコミュニティバスのガイドラインを取り入れている先進的な地域では、実験により収支を算出して運行を検討したり、路線の乗降者数を調査して少ないところでは乗合タクシーに変更するなどの逆の基準を取り入れている。そういった形で、持続に必要な基準を今回の計画で盛り込めたらいいと思う。計画の根底となっている部分であってもこれを期に手を加えるのはどうだろうか。

○事務局

これまで公共交通というと、どうしても路線バスに関心が行きがちだったと思う。その中で乗合タクシーがあるが、路線バスから乗合タクシーという順番での利用も検討している。その方策については、資料 6 の 1 ページの右側に詳しく載せている。このような公共交通を維持していく手法として今後考えていく論点として記載している。

○岡委員

運賃の設定についてだが、黒部市の路線バスに関しては、距離に応じた運賃が設定されているところと一律 100 円、200 円に設定されているところがあり、あまり運賃に関する議論がされていないのではないかとと思われる。ちょうど消費税の引き上げもあるということで、あの風や地铁に関しても税率に合わせて運賃の値上げをされると思われるので、収入に関する議論も必要になるため、運賃についても今後は議論していただきたいと思う。

○事務局

その点に関しても作業部会で指摘をされているので、今回の計画の中でどの様に反映させていくのか検討していきたいと思う。

○石橋委員

第 1 次計画の中で、新たな交通システムの検討という項目が検証中とのことだが、先ほどの事務局の話も含めてデマンド型のことも考えたが、この新たな交通システムについてはどのことを指しているのか教えていただきたい。また公共交通の担い手確保ということについて、これの内容は NPO 法人などを立ち上げて地域バスやタクシーを運行するというものなのか、教えていただきたい。

○事務局

まず一点目の新たな交通システムについてだが、先ほども話したがデマンド運行を考えている。ただ具体的な内容についてはさらに協議が必要な事項かと思う。次に、地域バス、タクシー導入の可能性の検討についてだが、これも今後の研究課題になっている。黒部市では、事業者が主体となって運行している。行政や事業者が直接手を加えられない部分もあると思うが、地域の人材によりカバーできる部分があるのではないかと思う。他の自治体でもそのような事例はあるので計画の中での研究課題としていこうかと思っている。

○菅野委員

この機会に伝えておきたいのだが、黒部ワンコインきっぷをもっと知ってもらうために PR をしてほしい。9 月の 14～16 日は宇奈月温泉でイベントが行われ、そのタイミングで多数の利用者に期待しているがなかなか公共交通を利用する人自体が少ない。宇奈月温泉駅に関しては無料の駐車場があるため、新幹線市街地線を利用せずに自家用車を利用する人がほとんどとなっている。この無料駐車場の使用を制限するなどの社会実験も必要なのではないだろうか。

○川端座長

新幹線市街地線の利用の中で、市の職員の駐車場を土日に利用していただいて、バス停へ行くという使い方を聞いたのだがこれについて説明してほしい。

○事務局

新幹線の駅周辺に黒部市の無料駐車場がある。ただ 3 連休などになると皆さんの利用が増えることもあり、飽和状態になるようなことも見受けられる。その一つの対策として市の職員駐車場を休日限定で駐車できるようにし、すぐ横の三日市のバス停から新幹線市街地線で移動していただく、もしくは電車を利用して新幹線の駅まで行けるという形で利用していただいている。

○川端座長

予定していた時刻に近づいてきたので最後に原田先生からご意見をいただきたい。

○原田委員

地域公共交通網形成計画自体が全国的にかなり作られているが、再編実施計画までなかなか至らない場合が多い。ただ、黒部市の場合はかなり実施計画に近づいていると思う。

そこで、地域公共交通フォローアップ・イノベーション検討会というものがあり、このような計画をしやすいするための制度的な後押しをしようということで、今度審議会が行われる。こういった形で国全体として、このような計画の後押しをするために動いているので今後も頑張ってもらいたい。

○川端座長

ありがとうございます。今回いただいた意見を取り入れ計画策定に努めていきたいと思う。なお、本日意見を述べられなかった方も、何かあれば事務局の方まで連絡をいただきたい。

その他

- その他意見等なし。

閉会（谷島委員）

- 谷島委員より挨拶を行った。

本日は長時間に渡り協議会に参加していただき、ありがとうございました。また、川端座長には円滑な協議の進行を務めていただき誠に感謝を申し上げます。冒頭の方で申し上げましたが、第 2 次地域公共交通網形成計画ということで、来年 3 月まで計画の納期があるので、今後も皆さんで頑張って作っていただければと思います。今回の活発な議論が計画に反映され、より良い計画になることを期待するとともに、引き続き各位の立場から公共交通の利用促進にご指導いただければと思います。閉会にあたっての挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

以 上